



源兵衛川を中心とした、 「水の都・三島」を形づくる 地域水系基盤を巡る旅

2023年7月10日

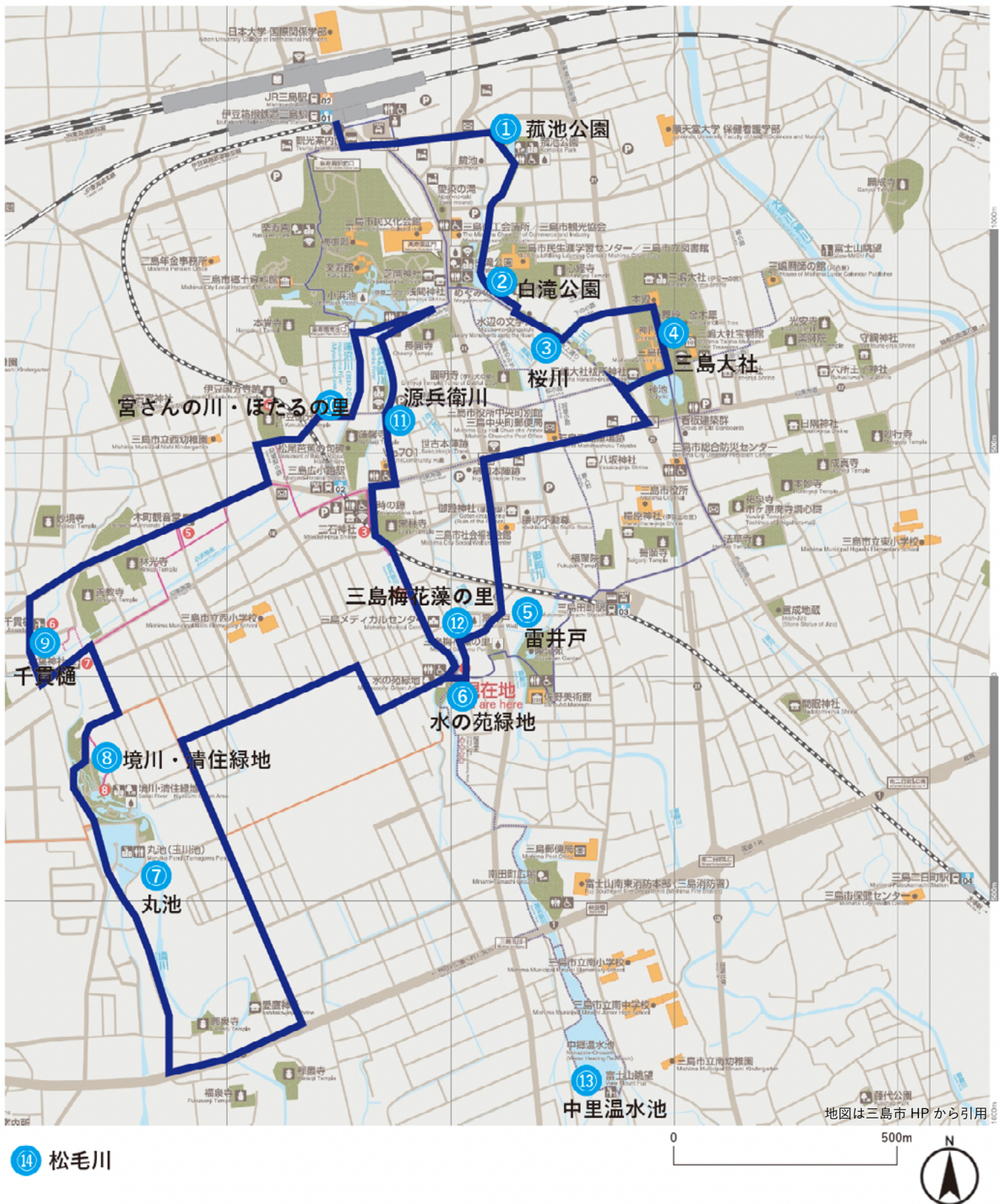
参加者：

早稲田大学

小澤広直、長澤歩、望月友貴、緒方陸人、麥廣之、塩山祈、原本

散策ルート

7/10 午前9時、三島駅から三島の湧水、水系を巡り、14:30に2名が合流後、グラウンドワーク三島（源兵衛川を愛する会）・越沼正様の案内のもと、源兵衛川を見学。その後三島梅花藻の里にてグラウンドワーク三島・渡辺豊博様より活動の説明と質疑応答が行われた。



ルート：三島駅→①孤池公園→②白滝公園→③桜川→④三島大社→⑤雷井戸→⑥水の苑緑地
 →⑦丸池→⑧境川・清住緑地→⑨千貫樋→⑩宮さんの川・ほたるの里→⑪源兵衛川→⑫三島梅花藻の里
 後日訪問 (8/23)：⑬中里温水池、⑭松毛川

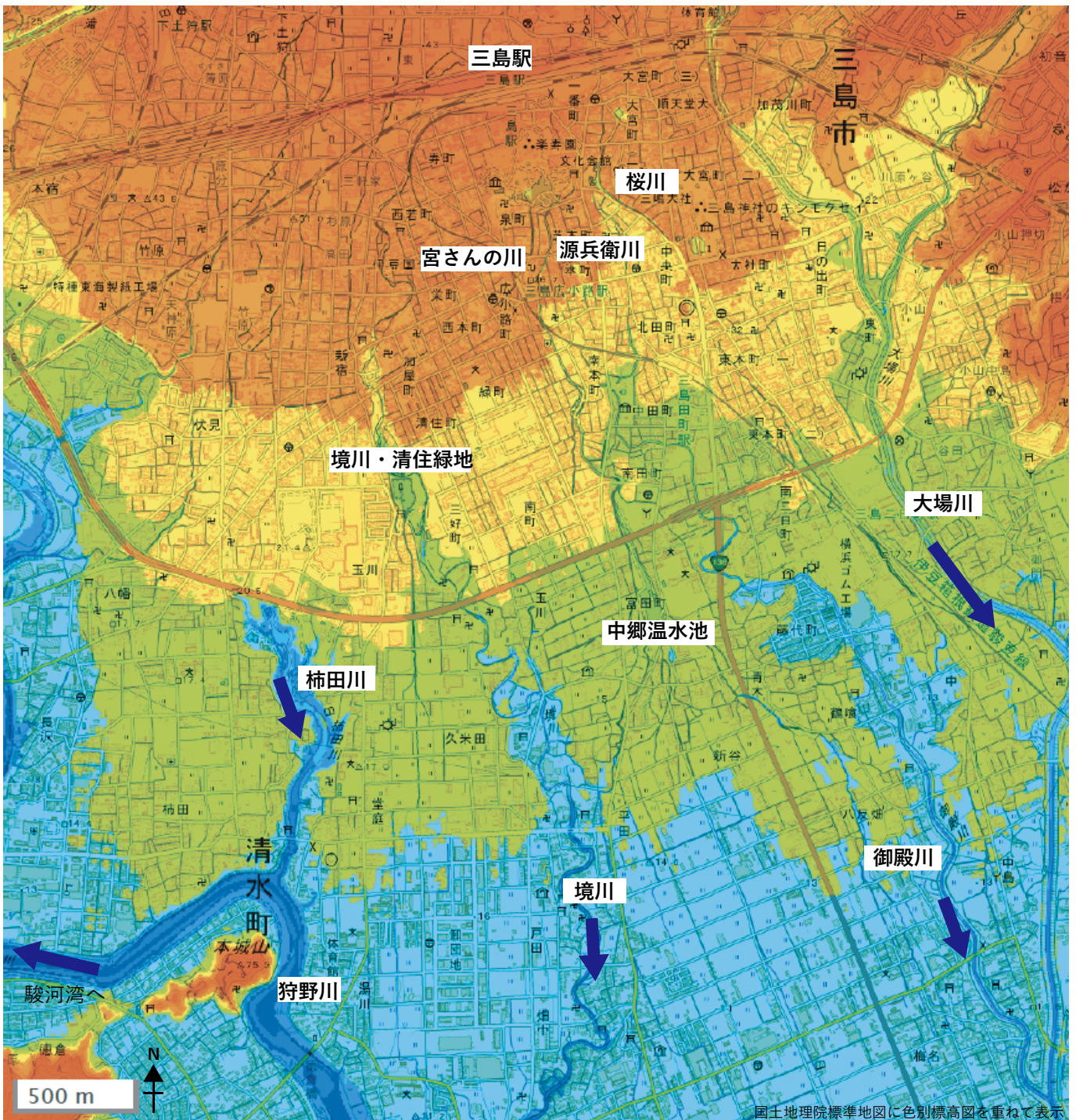
三島市の水系・地形・富士山湧水について

狩野水系

三島市の西・南部にある中心市街地では、楽寿園小浜池・菰池公園・白滝公園・浅間神社を水源とする、宮さんの川・源兵衛川・桜川・御殿川などが、新幹用排水路または農業用水路として分布流下している。また、市内の中小河川は境川、柿田川、大場川などを通じ、狩野川に流入し駿河湾へと流れ出ている。

富士山南麓の湧水

富士山の噴火のたびに噴き出した溶岩の流れは40km離れた三島まで流れ込み、現在の三島市の地形を作り出した。また富士山やその周辺に降った雨は地下にしみ込み、長い時間をかけ、三島で湧き出している。そのため、三島市内では数メートル掘るだけで湧水が湧き出し、現在でも湧水が駅前や公園など多くの場所で見流することができる。



旅の記録1：源兵衛川

源兵衛川は富士山からの湧水である楽寿園・小浜池を水源とする、1.5kmの農業用水路である。1960年代以前は、住民の生活用水として、洗濯、洗い物、冷蔵庫として、子供が泳ぎ、釣りなどに使用されていた。しかし、上流部の地下水の汲み上げ、雑排水の流入、ゴミの投機により水質が悪化し、一時は暗渠化し汚れを隠す計画まで検討された。1990年から「三島ゆうすい会」、1992年から「グラウンドワーク三島」（以後GW三島）によるアンケート調査、勉強会など、住民・専門家・企業・行政の協働により、多自然の川作りが行われた。源兵衛川は、「世界かんがい施設遺産」、「世界水遺産」にも選定されている。源兵衛川は8つのゾーンに別れているが、ゾーン8の中郷温水池は後日伺い、ゾーン6、7は今回は時間の問題上見ることができなかった。



水の散歩道の様子



源兵衛川ゾーニング図

「源兵衛川生きもの観察ガイド」HPから引用

ゾーン2「水の散歩道」

源兵衛川を中心となる、川遊びを通じ、自然や生き物にふれ、水の大切さを体験できるゾーン。川の中の飛び石散策路や、生垣、橋、川辺のテラスがあり、様々な工夫が施されている。住宅の裏を通る散歩道のため、ゾーン初めの飛び石はあえて歩幅や高さを不均一にし、歩きにくく、下を見ながら歩くため住宅がめに着きにくいデザインが施されている。また、三島ではカワバタと呼ばれる岸辺に張り出した構造物により、古くから風呂の水汲み、野菜洗い、洗濯などに使われてきた。現在はカワバタを思い起こすようなデッキや広場が整備され、地域の子供の遊び場、大学生の教育の場、地域住民の憩いの場として賑わっている。



飛び石には、すれ違いの際に横に避けるためのステップが設けられている

ゾーン3 「水と思い出」

かつて東海道宿場町があったことから、ゾーンの名前が付けられた。時の鐘の改築、三島富士線や三石神社を中心とした親水空間の整備が行われた。商店街の裏にあることから、街の賑わいを感じられるゾーンとなっている。



写真左側に時の鐘、右側にカワバタの名残が見られる

ゾーン4 「水と出会い」

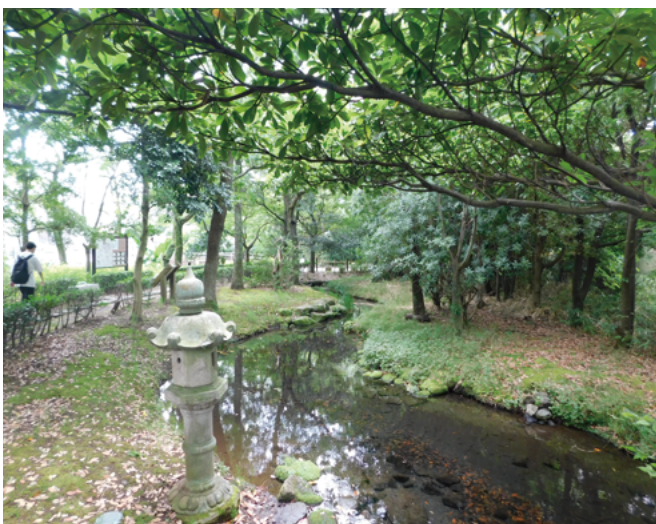
2004年に開業し、テラスが川に隣接するカフェや、橋の下を通る飛び石が整備されたゾーン。ホテルが多くみられ、現在はホトケドジョウの生息環境の再生活動が行われている。



遊歩道を歩く人々と川沿いのカフェ

ゾーン5 水の苑緑地

源兵衛川の中程にある水の苑緑地は森に囲まれる、湧水池、三島梅花藻に触れることができる飛び石、トイレ、ベンチ、デッキなどが整備されている公園である。また、カワセミやホテルの観察・撮影スポットともなっている。



水の苑緑地の様子

ゾーン5 三島梅花藻の里

1995年からGW三島が整備をしている湧水公園。水質汚染により姿を消していた、きれいな水でしか育たないミシマバイカモを増殖し、各河川に移植している。現在は毎週木曜日にボランティアによる清掃作業が行われている。



ミシマバイカモは流水を常に要する

ゾーン8 中郷温水池

源兵衛川が流れつく温水池。下流 13 集落のための農業用水を貯め、水温の低い湧水を温めるために作られた農業用ため池である。1990 年から親水整備事業が行われ、コンクリートの護岸から、緑地帯が設置され、二箇所の中洲が造成された、多自然河川工法による整備が行われた。その結果、現在ではのべ 100 種類の動植物の生息地となっている。



池の中に2つの中洲があり、流速に変化をつけることで多種多様な生物が生息することができる

冬には渡り鳥が飛来する越冬地となる

源兵衛川のデザインプロセス

源兵衛川の再生を含む、三島市の環境改善活動は、NPO 法人グラウンドワーク三島により行われている。グラウンドワーク三島は 1992 年に三島市内 8 つの市民団体からなった、「ネットワーク組織」であり、現在は 20 の市民団体が参加し、70 のプロジェクトが地域住民やボランティアによって進められている。

源兵衛川のデザインは、はじめにアクションプランを策定するワークショップを GW 三島のメンバーの間で 10 回ほど行われ、基本的な整備の方針が決められた。その後、建築・土木・造園の設計者グループ 10 名、植物・鳥類・昆虫の生態系アドバイザー 15 名の専門家集団が参加し、市民と専門家の協働体制が作られた。市民の参加を促すため、源兵衛川の清掃活動や勉強会が行われ、市民 1500 人に向けた意向調査のアンケートが行われた。その結果、水質は改善し、活動に協賛するパートナーシップの仲間が増加した。また、住民、行政、土地改良区との合意形成の苦悩の様子は『清流の街がよみがえった』（渡辺,2006）に詳しく書かれている。特に、源兵衛川の「水の散歩道ゾーン」は住宅の裏を通るため、住民との合意形成が困難だった。

丁寧な合意形成と設計の結果、1991 年から 1998 年まで、約 14 億円の整備費を掛け、アトリエ鯨らの設計チームにより、護岸を石や土羽に戻し、散歩道、テラス、ビオトープ、溶岩ブロックを使った親水護岸など、多自然河川工法がなされ、現在の源兵衛川の形が出来上がった。



源兵衛川の近隣に位置する、GW 三島の事務所

旅の記録2：桜川一源流となる公園の湧水から三島大社まで

桜川

菰池公園の湧水を水源とし、白滝公園を経て三島大社まで続く灌漑用水。「三島 水辺の文学碑」として、川に沿って若山牧水や正岡子規・井上靖などの碑が建てられている。視察日には、小学校の環境学習と見られる団体が川の中へ入り水と触れ合っている様子が見られた。



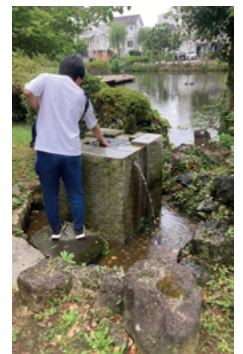
柳の木と文学碑が立ち並ぶプロムナード



桜川を使った環境学習

菰池公園・鏡池

1956年10月に誕生した、広さ約3700㎡の市民の憩いの場として親しまれている公園。桜川の水源となっている伏流水が湧く「菰池」があり、噴水、遊具、ウッドデッキなどが整備されている。西に100m程に、「鏡池ミニ公園」がある。湧水が涸れ、地域から忘れ去られていたが、GW三島などの活動により、住民との協働で湧水の湧き出るミニ公園へと整備されている。



菰池公園の湧水に触れる



菰池公園の全景



ウッドデッキを歩く

白滝公園

1956年10月に誕生した、0.41haの公園。公園内には、溶岩塚や、縄状溶岩など、溶岩に覆われている。溶岩の間から湧水が湧き出し、菰池公園と共に桜川の源流となっている。



溶岩が作り出す地形と湧水



水遊びができる池



菰池公園と三島大社をつなぐ桜川

出典：Google Maps

三島大社（神池）

桜川の流れつく三島大社は奈良・平安時代の古書に記録が残され、三島の地名の由来にもなっている。三嶋大社の祭神である三島大明神（大山祇命おおやまつみ）は、伊豆半島や周辺地域の火山とゆかりのある神様であり、境内には湧水が多く見られ、三島宮川用水を水源とする「神池」と呼ばれる池がある。



神池



三島大社の境内

旅の記録3：グラウンドワーク三島の活動実践地を巡る

雷井戸

市街地の中にある、直径約3mほどの井戸。かつて田町簡易水道の水源として地域住民に使われていたが、放置されていたものをGW三島が泉トラスト運動により買収。周辺の環境もふくめ、地域住民や企業との協働により整備、維持管理が行われている。



雷井戸の隣を流れる清流

雷井戸のポンプを使用している様子

宮さんの川（蓮沼川）

楽寿園の小浜池を水源とする、全長1.5mの川。「宮さんの川」の名前は楽寿園に小松宮別邸があったことによる。1970年代頃から湧水の枯渇と、農業用排水路としての用途を失い管理が行われなくなった結果、ゴミが放置されるようになり、1980年に「宮さんの川を守る会」が結成された。川の清掃、花のプランター、東レ三島工場から冷却水を提供を受け、良好な河川環境を創出した。2000年には「三島ゆうすい会」により新しく水車が設置されている。

ホタルの里

三島市「街中がせせらぎ事業」として、宮さんの川の上流部に水を流し、GW三島、地域の住民による清掃や、三島ホタルの会の管理により、ゲンジボタルの発生が見られるようになった。



「宮さんの川」の様子



「宮さんの川」に再建された水車

千貫樋

境川に架かる鉄筋コンクリート造の水路橋。楽寿園小浜池の水を清水町へと運ぶ灌漑用水路として建設された。1555年に建設され（諸説あり）、関東大震災により崩壊する以前までは木造であり、再建された現在の樋は、全長42.7m、深さ0.45m、幅1.9m、高さ4.2mであり従来のものと同規模である。



境川・清住緑地

自然観察会の開催や住民参加のワークショップを開催し再生した緑地公園。現在は住民主体の管理マニュアルによって維持管理が行われている。公園内は、田んぼ、ビオトープ、森に囲まれた池、砂の間から湧き出す湧水が多く見られる。令和2年度には養魚場跡地を利用した拡張エリアが設けられ、ウッドデッキの歩道や大きな水柱が設けられている。また、隣接する丸池公園には、南の水田への農業用水を灌漑するためのため池として使われる丸池がある。



公園として整備された歩道



湧水が噴き出る水柱

松毛川

松毛川（灰塚川）は、狩野川の名風景である河畔林が残される、三日月型の止水域である。かつては狩野川の一部であったが、昭和初期の堤防工事により現在の形となった。水質悪化やゴミの放棄など環境被害により、環境悪化が進んでいたが、2003年からGW三島による森づくりにより、1600本の植林がされた。現在では、多くの植物、野鳥、魚、昆虫のすみかとなっている。



ボランティアによる草刈り



松毛川の河畔林と周辺の田園風景

三島のまちづくりと地域水系基盤の関係について

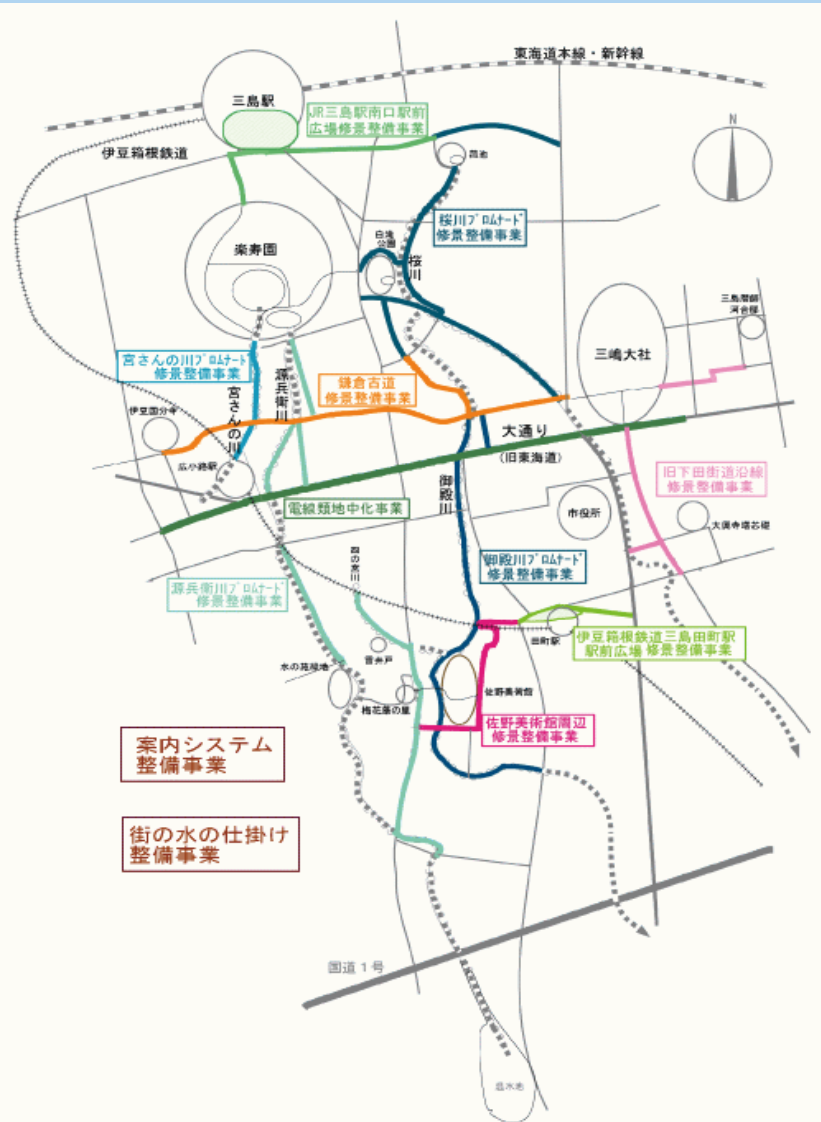
GW 三島の渡辺事務局長は「三島では、グラウンドワーク活動の小さな「点」（三島梅花藻の里など 34 の環境改善実践地区）が拡大し、川という「線」（源兵衛川）で連結し、街づくりの「面」（街中がせせらぎ事業）へと広がりをみせている。」（『清流の街がよみがえった』 p.169）と述べている。このことから、源兵衛川や三島市の水系がまちづくりとどのように関連し、影響しているか、また活動が行われ、整備された場所が、地域水系基盤のデザインの「ツボ」となっているかを考察する。

2001 年（「街中せせらぎ事業」開始）までの三島市の湧水改善事業年表

1977	三島サロンが映画「わが街三島-1977年の証言」を制作
1978	三島自然を守る会発足
1979	水上プロムナード計画を策定（菰池、白滝公園、桜川一帯で遊歩道、植栽の整備がされた）
1980	宮さんの川を守る会発足
1981	全市いっせいの河川清掃が開始（源兵衛川、桜川、宮さんの川、御殿川の清掃。年一度。毎年 1000 人参加）
1984	水緑都市モデル地区整備事業計画を策定
1985	三島青年会議所がホタル祭りを開催
1990	源兵衛川の整備（農業水利施設高度利用事業三島中部地区）が開始（1998 年まで）
1991	三島ホテルの会発足・三島ゆうすい会発足
1992	グラウンドワーク三島発足・雨水浸透マス設置への補助金交付が開始
1993	源兵衛川を愛する会発足
1994	
1995	桜川を愛する会発足
1996	三島商工会議所「街中せせらぎビジョン」提唱
1997	
1998	節水コマの無料配布、雨水貯留装置への補助金交付が開始
1999	グラウンドワーク三島が NPO 法人に
2000	
2001	街中せせらぎ事業が開始（源兵衛川、桜川、宮さんの川、御殿川、四の宮川を繋ぐ道の整備など）

街中せせらぎ事業年表

JR 三島駅南口駅前広場修景整備事業	2001-2005
宮さんの川プロムナード修景整備事業	2003-2004
源兵衛川プロムナード修景整備事業	2003-2005
水の仕掛け整備事業	2004-2005
御殿川プロムナード修景整備事業	2002-2004
三島田町駅前周辺修景整備事業	2004-2005
電線類地中化事業	2001-2007
鎌倉古道修景整備事業	2001-2005
案内システム整備事業	2001-2005
下田街道沿線修景整備事業	2006-2007
御殿川プロムナード（佐野美術館周辺）修景整備事業	2006
四ノ宮川修景整備事業	2006
三嶋磨師の館改修	2006



実施事業の位置図

三島市 HP：街中せせらぎ事業 <https://www.city.mishima.shizuoka.jp/seseragi/about.htm>

三島市の水系を生かしたまちづくり計画は、1979 年に三島市が策定した水上プロムナード計画が最も古い。この事業により、1983 年に愛染の滝公園、菰池公園、白滝公園、桜川沿川遊歩道が整備された。この際に策定された「ふるさと三島・みずのまち構想」（進士五十八氏らにより策定された基本計画）が源兵衛川水環境整備事業に発展していった（『清流の街がよみがえった』 p.44）。その後、1990-1998 年に源兵衛川が整備され、2001 年から「街中せせらぎ事業」が三島市で開始されている。

引用：

藤原真人，春山成子：湧水環境改善に関わる行政の試作と市民組織に関する研究 - 静岡県三島市を事例として -，農業計画学会誌，Vol.29，No.2，pp.113-118，2010
三島市 HP：街中せせらぎ事業 <https://www.city.mishima.shizuoka.jp/seseragi/about.htm>



三島駅南口広場に整備された湧水



まちなかに立てられた看板

2001年「街中せせらぎ事業」と2017年「水の郷構想」

「街中せせらぎ事業」では、三島駅南口広場の修景整備により湧水が駅前で見られるようになり、「宮さんの川」、源兵衛川、御殿川でのプロムナード修景が行われた。湧水池や川をつなぐ歩道の整備は歩行者優先のためカーブやハンプが整備され、車速を落とす工夫がなされた。三島大社の門前通りである下田街道などは、電線の地中化、歩道・車道の石畳化、ベンチの設置、街路樹の植栽などが行われている。

また2017年に策定された、三島市と隣接する清水町の「水の郷」構想では、三島駅と清水町・柿田川公園をつなぐ湧水のネットワークを向上する計画が立てられた。この「水の郷構想事業」により、清水町の歩道整備、三島市・清水町の案内標識の統一、観光ルートマップの作成、また境川・清住緑地のゾーン拡大整備が2019年までに行われた。三島市の水系を活用したまちづくりは、現在では隣の清水町まで拡大している。現在、GW三島は活動を70まで増やし、御殿川の整備計画を立てており、また、行政も、三島市が宮さんの川、源兵衛川、白滝公園・桜川を景観重点整備地区として整備するなど、三島の水系基盤を生かしたまちづくりを進めている。



歩行者優先の空間創出のためカーブが整備された源兵衛川プロムナード（左）と鎌倉古道（右）

三島における地域水系基盤の「ツボ」

1998年の源兵衛川の整備から、2000年代の街中せせらぎ事業、2017年の水の郷構想まで、三島市の水系を活用したまちづくりについて整理をした。源兵衛川の成功により、街中せせらぎ事業が進むなど、NPOであるGW三島の市民による三島梅花藻の整備や、ホテルの里、源兵衛川の掃除など、最初は「点」であった活動が、源兵衛川の大規模な整備により「線」となり、市の事業である「街中せせらぎ事業」で大範囲の道路や河川環境が整備された、「面」であるまちづくりに繋がったというストーリーが読み取れ、市民による活動で変化を起こした川や公園が、三島の地域水系基盤に影響を与える「ツボ」であったと言える。また、源兵衛川の「ツボ」としてのポテンシャルについて、GW三島・渡辺様は、源兵衛川の水位が安定し氾濫の危険性がないこと、また、源兵衛川が一番有名になったのは、街の真ん中でわかりやすいから、また汚いものを綺麗に再生した劇場性が大きいと語っており、今後地域水系基盤の「ツボ」を抽出する際に参考となる。



出典：三島市 HP：水の郷湧水コースが完成しました！

https://www.city.mishima.shizuoka.jp/kanko_content046094.html

「都市の鍼治療」としての「街中せせらぎ事業」

最後に、地域水系基盤の「ツボ」に関連するものとして、ブラジルの都市クリチバの元市長・ジャイメ・レルネル氏により提唱された「都市の鍼治療」(Urban Accupuncture)、シンガポール国立大学・Nirmal Kishnani 准教授の提唱する Ecopuncture (エコロジカルな鍼治療) をあげておきたい。

ブラジル・クリチバは現在では国連などから表彰されている環境都市だが、1971年から市長・都市計画家としてまちづくりをリードしたのがレルネル氏である。レルネル氏は「都市の鍼治療」について、「計画は一つのプロセスである。しかし、それがいかに優れていても、それによって即時的に変化を起こすことはできない。都市の変化はほとんどの場合、ある閃きのような行動によって始まり、次第にドミノ倒しのように連鎖反応が起きて広がっていくのである。そして、それが私の言う優れた鍼治療であるのだ。」と述べており、優れた「鍼治療」の例として、サンフランシスコのウォーターフロント再開発や、ソウルの清溪川の再生、またルーブル美術館のピラミッドなども挙げている(『都市の鍼治療』,メルネル,2005)。

Kishnani 氏の提唱する「Ecopuncture」も、都市のデザインの分野において、鍼治療のように、一つの都市の自然再生を行うことにより、社会・生態系システムのつながり(Connectedness)や相互作用(Reciprocity)を高め、都市全体のレジリエンスを高める考え方である(「Ecopuncture Asia」Facebookより)。

また、レルネル氏に影響を受け、『都市の鍼治療』の和訳を行った龍谷大・服部圭郎教授により開設されたHP「都市の鍼治療データベース」において「街中せせらぎ事業」も「都市の鍼治療」の一例として挙げられており、服部教授は「その都市にある自然を活かすことで、地元の人達だけでなく、観光客にも喜ばれ、商店街の賑わいも加わるといった、なかなか素晴らしい「都市の鍼治療」事例である。」と、源兵衛川をはじめとする三島市中心市街地の都市計画が三島市全体への「ツボ」として機能をしている、と評価している。

ジャイメ・レルネル(中村ひとし・服部圭郎 共訳):「都市の鍼治療—元クリチバ市長の都市再生術」,丸善株式会社,2005

Nirmal Kishnani: Ecopuncture: "Transforming Architecture and Urbanism in Asia", FuturArc, 2019



今回お世話になった、GW 三島・渡辺豊博様、越沼正様に感謝申し上げます。

レポート作成に使用した参考資料一覧

1. 渡辺豊博：『清流の街がよみがえった―地域力を結集 グラウンドワーク三島の挑戦―』，中央法規，2005
2. GW 三島 HP（実践事業例）
<http://www.gwmishima.jp/modules/information/index.php?&cid=10>
3. 伊豆半島ジオパーク HP
<https://izugeopark.org>
4. 三島アメニティ大百科
https://www.city.mishima.shizuoka.jp/mishima_info/amenity/mokuji/mokuji.htm
5. 松毛川生態系ガイド
<http://www.mishima-river.jp/matsuge-river/index.html>
6. 源兵衛川生き物観察ガイド
<http://mishima-river.jp/index.html>
7. 三島市 HP
<https://www.city.mishima.shizuoka.jp/ipn044681.html>